

る。要するに、東亞全部を通じて、半晴半曇の空模様であつたのである。

次ぎは、昭和18年2月5日の北海道の皆既日蝕である。そして其の後は、かなり長く日蝕が日本で見られない運命にあるのだから、是非、この北海道の日蝕を成功させたいものである。(1941-10-1)

後記：こんどの日蝕の報告は今尚ほ諸方から集まりつゝある。全部が本號の編輯の締切りに間に合はないのは残念であるが、一部の續輯を來年二月號に載せることにもならう。富貴角に於ける觀測の成績中に、あゝした天氣だつたから、全くの素人の中に意外な良い寫眞を撮られた人々があるらしいのは面白いことである。大毎の林氏が椰子の葉と共に撮られたコロナの寫眞は良い寫眞である。當時の内部コロナを立派に表はしてゐる。又、之れに匹敵するものは、朝日グラフに掲載された“二重うつし”のコロナ寫眞である。これは、素人の記者が、玄人から撮影方法を教へられたまゝで、空の模様を少しも考慮せず、めくら減法に40秒時の露出をしたものである。この40秒間に、2回だけ雲が切れて、コロナが輝やいた。之れが其のまゝ乾板上に寫つてゐるのであつて、之れは決して、撮影者自身が考へてゐるやうな“二重うつし”ではない。立派な2回露出のコロナである。こういふものは、素人の無鐵砲が偶々奏功したのであつて、玄人では全く眞似の出来ない離れわざといふべきか、又は“ケガの功名”と言ふべきか?! (1941-10-25. 追記)

編輯室より

一寸珍らしい日蝕特輯を試みた。締切が餘り早かつたので、其の後にも續々報告が集まりつゝあり、全部本號に入らないのは遺憾である。十一月には田上天文臺で、九月の日蝕の記念展覽會を開く筈ですから、ドシドシ御出品を願ひます。つぎの第247號は、年末の宿望を達するため、1942年度の“年鑑”の形にしたいと思ひ、只今考案中です。之れは一ケ年間使用し得るものといふ豫定です。餘分のほしい方は、成るべく早いうちに、豫約下さい。本年分(第21巻)の總索引は都合により來年三月號又は四月號に載せます。

會告 本會の原動力たる會費は、本會規則第6條にもあります如く、前納されて初めて、本會が經營維持出来る制度であります。點を御了解下さい。此際會員各位の御協力を得て、一層收入の確實を期し度く存じます。何卒この事を御諒承の上、會員にして未納の方は勿論のこと、新年度會費の納入を勵行して頂き度く切に希望する次第であります。

念の爲め：——昭和17年分會費は 年額4圓です

東亞天文協會急報(不定期、但し) 實費年額2圓40錢 本會々費を6圓40錢
(毎月數回發行) 加算して

應召會員は會費免除 應召又は從軍される場合は直に其旨御申出下さい。